

# 第2章 環境の現況と課題

## 2-1 環境の推移

### (1) 地域概況

#### ●位置・地勢

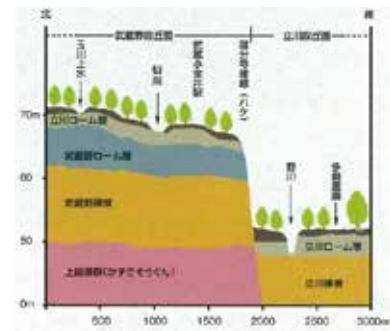
- 小金井市は武蔵野台地の南西部にあたる東京都のほぼ中央に位置し、都心から西方に約25kmの距離にあります。
- 東は武蔵野市、三鷹市、西は国分寺市、南は調布市、府中市、北は小平市、西東京市とそれぞれ接しています。
- 総面積は11.30km<sup>2</sup>であり、市域は東西、南北ともにおよそ4kmの広がりがあります。
- 市域のほぼ中央を東西に横切る国分寺崖線（通称：はげ）を境に、北部平坦面（武蔵野段丘）と南部平坦面（立川段丘）では最大で約35mの高低差があります。
- 国分寺崖線に並行して、崖線上（武蔵野段丘）には玉川上水及び仙川が、崖線下（立川段丘）には野川が東西に流れています。
- また、崖線周辺では湧水が豊富であり、上記の河川等とともに身近な水辺として市民に親しまれています。

#### ●人口・世帯数

- 住民基本台帳によれば、平成26（2014）年1月1日現在の小金井市の人口は117,001人、世帯数は56,828世帯です。
- 昭和40（1965）年と比較すると、およそ半世紀で人口は約1.63倍（約45,200人増）、世帯数は約2.57倍（約34,700世帯増）となっています。
- 人口、世帯数ともに一貫して増加傾向がありますが、昭和50（1975）年以降の伸びは幾分緩やかになっています。
- 一方で1世帯当たりの人口は減少を続けており、2.06人となっています。



位置図

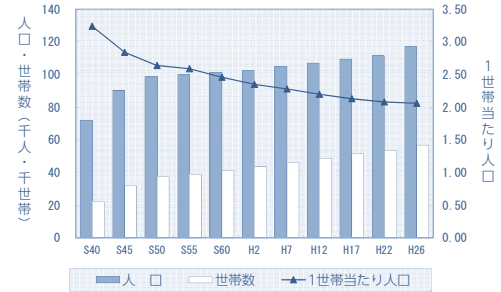


地形断面図

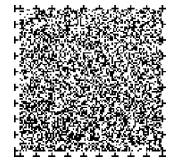


【凡例】  
 ■ 国分寺崖線 ■ 河川等  
 ■ 公園等 ■ 学校等  
 ■ 主要道路

地形平面図



住民基本台帳による人口・世帯数の推移 (各年1月1日現在)



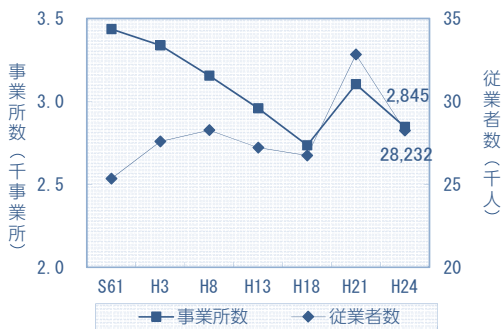
## ●産業

- 市内の事業所数は減少傾向にある一方で、産業従業者数は増加しており、平成24（2012）年現在で2,845事業所、産業従業者数28,232人となっています。
- 従業者数の内訳をみると、第3次産業が約91%と大半を占めています。
- 農家数、農地面積ともに年々減少する傾向にあり、平成22（2010）年現在でそれぞれ169戸、83.78ha（市域面積の約7.4%）となっています。
- 平成24（2012）年現在、小金井市内の従業者4人以上の工場は23事業所となっており、従業者数、製造品出荷額は近年減少傾向となっています。
- 卸売・小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額も同様に減少傾向となっています。

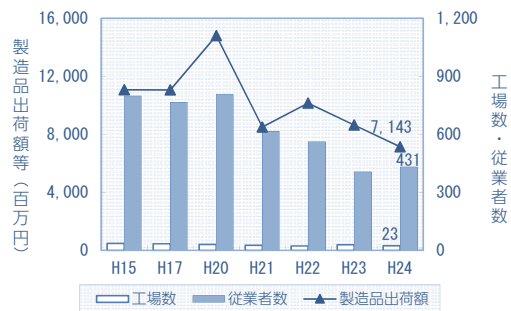


産業別従業者数の内訳  
(資料：経済センサス)

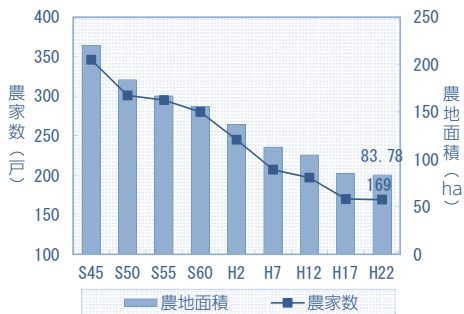
【上記産業の区分】  
 第1次産業：農業、漁業  
 第2次産業：建設業、製造業  
 第3次産業：情報通信業、運輸業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、サービス業等  
 その他：公務など



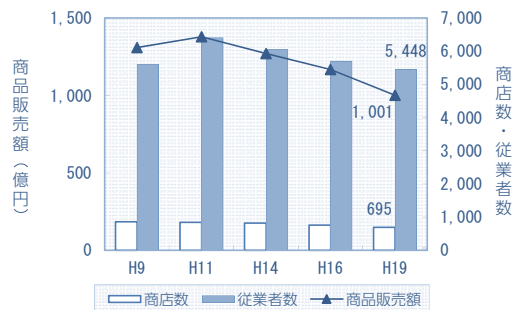
事業所数・従業者数の推移  
(資料：企業統計調査、(H21以降)～経済センサス)



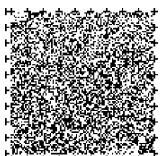
工場・従業者数、製造品出荷額等の推移  
(資料：工業統計調査、各年12月31日現在)



農家・農地面積の推移  
(資料：農林業センサス、各年2月1日現在)



商店・従業者数、商品販売額の推移  
(卸売・小売業)  
(資料：企業統計調査、各年6月1日現在)



## ●土地利用

- 平成25（2013）年現在の地目別土地面積（課税地）をみると、約85%が宅地（工業地・商業地含む）であり、次いで畑が約11%を占めています。
- 都市計画では大半が住居系用途（約95%）に指定されており、中でも第一種低層住居専用地域（約65%）が大きな割合を占めています。
- 都市計画マスタープランにおいては、コンパクトで効率的な市街地を目指して、JR武蔵小金井駅周辺及び東小金井駅周辺を総合拠点及び副次拠点に設定し、都市機能の更新と土地の高度利用を推進する方針です。

地目別土地面積(課税地)の内訳 (単位：千m<sup>2</sup>)

宅地	畑	山林	その他
5,638 (84.7%)	720 (10.8%)	44 (0.7%)	251 (3.8%)

(資料：東京都統計年鑑、平成25年1月1日現在)



都市計画用途地域の内訳  
(資料：小金井市、平成26年9月1日現在)

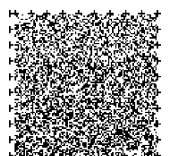


### 凡例

	総合拠点		住居複合地		広域幹線道路
	副次拠点		沿道利用地		幹線道路 (整備済・編成・整備中)
	地域中心拠点		都市計画公園・緑地		幹線道路 (今後整備を進める路線)
	低密度住宅地		教育施設		都市計画道路
	中密度住宅地		その他の大規模土地利用		鉄道・駅
	大規模団地		国分寺崖線（はけ）		河川
	商業・業務地				

### 土地利用の方針

(資料：小金井市都市計画マスタープラン、平成24年3月)



## ●交通

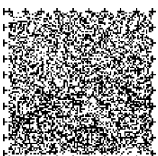
- 市域の北端、中央、南端を東西にそれぞれ五日市街道（都道7号）、連雀通り（都道134号）、東八道路（都道14号）が走り、これらと直交する小金井街道（都道15号）、新小金井街道（都道248号）などの主要幹線道路によって、道路網の骨格が形成されています。
- 自動車交通量は東八道路が最も多く、平成22（2010）年度の調査では1日30,000台を超えています。
- 鉄道路線はJR中央本線が市域の東西を、西武鉄道多摩川線が南東の地域を結んでいます。
- 平成22（2010）年度末現在での自動車保有台数は37,174台であり、ほとんどの車種で近年減少傾向となっていますが、ミニカー\*<sup>2.1</sup>については増加の傾向がみられます。
- 平成25（2013）年度の市内鉄道駅（JR 2駅及び西武鉄道1駅）における乗車客数は約3,292万人で、やや増加する傾向にあります。

主要幹線道路における自動車交通量

道路	観測地点	交通量(台/日)
五日市街道(都道7号)	武蔵野市桜堤 3-36-4(市境)	15,301
東八道路(都道14号)	府中市多磨町4(市境)	36,815
小金井街道(都道15号)	前原町 5-3-24	10,022
連雀通り(都道134号)	貫井北町 5-13-25	12,308
新小金井街道(都道248号)	貫井北町 3-32-15	21,054

(資料：国土交通省「平成22年度道路交通センサス」)

\*2.1…原動機に総排気量20cc～50ccのエンジンか定格出力0.25kW～0.6kWの電動機のいずれかを有する車。





●上・下水道

- 東京都の1人1日当たりの平均使用水量は、約330リットル/人・日です。
- 小金井市は多摩川を水源とする都水道局の東村山浄水場から、水道水の一部の供給を受け、残りは市内の井戸（深井戸）から汲み上げた地下水を供給しています。
- 市内の下水は、野川、北多摩一号、荒川右岸の3つの区域に分けて各水再生センターで処理されており、処理水はそれぞれ東京湾、多摩川、柳瀬川に放流されています。

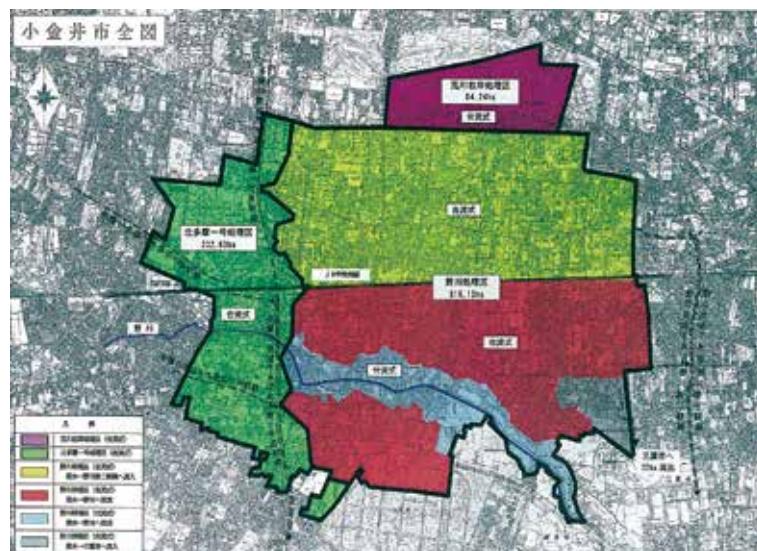
東京都の水道事業の概要(平成24年度)

	東京都	小金井市
給水人口(千人)	13,236	119
日平均配水量(千m <sup>3</sup> )	4,278	35

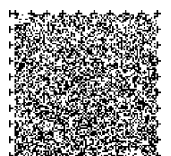
(資料：東京都水道局、小金井市)



東京の水道水源と浄水場別給水区域 (出典：東京都水道局)



小金井市の下水処理区図 (出典：小金井市公共下水道プラン)



## (2) 環境の現況

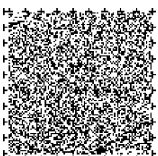
### ● 自然環境

#### 【現況】

- 小金井市は、野川、仙川、玉川上水などの水辺の環境に恵まれており、豊かな生態系や景観を形成する水辺は貴重な自然環境として位置付けられます。中でも野川は、水のきれいさと親水性を考慮した河川整備が行われています。特に第1、第2調節池周辺は自然に恵まれた美しい景観を誇っており、市民の憩いの場所であるとともに、市民の環境保全活動の拠点になっています。
- 多摩川によって作られた国分寺崖線は、野川に沿って東西に延び、流域に貴重な緑と湧水を提供しています。しかし、近年の宅地化により、樹林地の面積比率が減少していることから、東京都では同地域を緑地保全地域に指定して、崖線と一体となった樹林地及び湧水の保全を図っています<sup>\*1</sup>。
- 市内北部を東西に流れる玉川上水沿いには、名勝「小金井(サクラ)」があります。また、歴史的土木構造物である素掘りの水路など貴重な資源が現存することから、国の史跡に指定されており、これらの現況を残す目的で東京都では同施設を歴史環境保全地域に指定しています<sup>\*1</sup>。
- 小平市の小川水衛所から武蔵野市の境橋までの約6kmの区間は、名勝「小金井(サクラ)」に指定されています。しかしながら、近年の都市化に伴う生育環境の悪化により、樹勢が衰えていることから、新小金井橋から関野橋までの640mをモデル整備区間として補植、鑑賞スポットとなる人道橋の整備等を実施しています<sup>\*2</sup>。
- 自然環境の保護と回復を図るため、市では滄浪泉園を「特別緑地保全地区」に指定し、清掃・管理とともに定期的な調査を実施しています。また、年2回、底生生物の調査も実施しており、平成23(2011)年度の調査でナミウズムシ、サワガニなどのきれいな水の指標種が確認されていることから、比較的良好な水質が保たれていると考えられます<sup>\*3</sup>。
- 市内では桜・水・緑をテーマに、自然や文化にふれあえる4つの散策路(p.16参照)を設けており、四季を通して多くの市民や観光に訪れる方の憩いの場となっています<sup>\*4</sup>。
- 市民の意識調査では、市が最も力を入れるべき取組として、4割強の人が「緑や水に親しめる散策路の整備」を、3割強の人が「生きものの生息空間を保全する」を挙げています<sup>\*5</sup>。

#### 【課題】

- かつて野川には生活排水が流入していましたが、下水道の整備によって湧水を源流とした川になりました。しかし、雨が少ないと水の流れが途切れることがあります。一方で一定量以上の降雨時には、下水の流入(越流)によって水質に悪影響を及ぼすこともあります。現在、行政と市民が協力して対応していますが、流量の減少と雨天時の下水の流入は野川の大きな2つの課題です。
- 国分寺崖線の一部は緑地保全地域に指定されており、「水とみどりのネットワーク化」や生物多様性の確保において貴重な自然環境です。しかしながら、近年の宅地化により、樹林地の面積比率が減少しているため、崖線と一体となった樹林地及び湧水の保全が必要です。
- 名勝「小金井(サクラ)」は、近年の都市化に伴う生育環境の悪化により樹勢が衰えていることから、引き続き「まもる」活動が必要です。
- 市内には、市民や観光に訪れる方が「利用する」散策路などの多くの自然環境があり、引き続きそうした自然環境を「まもる」、また施設等の整備や「つくる」取組が重要です。



\*1) 保全地域の指定状況(東京都環境局)、\*2) 玉川上水・小金井桜整備活用計画(平成22年3月)、

\*3) 小金井市環境報告書、\*4) 小金井てくてくマップ(平成24年11月)、

\*5) 小金井市環境に関する市民アンケート調査(平成25年9月)



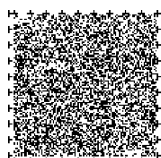




市内の散策路  
(資料：小金井てくてくマップ、さんぽみち総合研究所ホームページ)

散策コースと名所

コース	並木通り散策	湧き水と遊歩道	緑とせせらぎ	桜・公園と憩い
①	三光院	滄浪泉園	栗山公園	長昌寺
②	桜町病院	三楽の森と集会所	東京農工大学 科学博物館	市杵島神社
③	ハナノキの並木	貫井神社	金蔵院	梶野の築樋
④	ラーメン街道	湧水の道	小金井小次郎の墓地	名勝「小金井(サクラ)」
⑤	情報通信研究機構	閻魔堂木造閻魔王坐像・ イイギリ	小金井神社	桜樹接種碑
⑥	イチョウ並木	鈴木家三代私塾跡	野川のシダレザクラ	玉川上水
⑦	ケヤキ並木	千手院	市立はげの森美術館・ 美術の森緑地の湧水	真蔵院
⑧	ナンジャモンジャ通り	新小金井街道の桜並木	ムジナの坂	川崎平右衛門供養塔
⑨	ヤマボウシ・ ザイフリボクの並木	花と緑の小径	はげ(国分寺崖線)	都立小金井公園
⑩	山王稲穂神社	西之台会館付近の サクラとツツジ	都立武蔵野公園	江戸東京たてもの園
⑪	遊歩道北2号線	幡随院	野川	小金井薄紅桜
⑫	大松木下稲荷大神	黄金の水	都立野川公園	浴恩館公園





## ●都市環境

### 【現況】

- 平成24(2012)年度における市民1人当たりの都市公園等の面積は、7.14m<sup>2</sup>です<sup>\*1</sup>。緑被率は、平成10(1998)年度は29.5%でしたが、農地面積が減少したことなどにより、平成21(2009)年度は27.5%になっています<sup>\*2</sup>。
- 都市計画マスタープランでは、小金井公園・野川公園・武蔵野公園などの大規模公園・大学等を「みどりの拠点」として位置付け、さらに小金井街道とJR中央本線沿線ゾーンをそれぞれ南北と東西の「みどりの軸」とし、これらに野川などの水辺を加えることにより、「水とみどりのネットワーク化」を進めるとしています。
- 小金井市では、平成25(2013)年度に810本の樹木を保存指定するなど、市内に残る樹林地などの保全を図っています。
- 市民の意識調査では、緑化の推進や緑地保全に力を入れるべき取組の対象として、3割強の人が「街路樹や公共施設の敷地内」を、3割弱の人が「社寺境内の樹林、河川敷の緑」を選択しています<sup>\*3</sup>。
- 平成26(2014)年末現在、市内には8か所の市民農園・高齢者農園と2か所の体験型市民農園があります。
- 健全な水循環の保全に向けて、市では雨水浸透ますの設置を推進しています。平成21(2009)年度末に58,665個(設置率53.4%)<sup>\*4</sup>であった雨水浸透ますの設置数は、平成25(2013)年度末には67,711個とその後伸びており、設置率は58.9%と非常に高い状況を保っています。
- 市内には国分寺崖線を中心に多くの坂があります。そのうちの18か所に歴史的な背景を基にした名称が付けられており、散策路としても親しまれています<sup>\*5</sup>。また、崖線周辺には旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が見られ、湧水地点の分布とも重なっています。このことから、当時より湧水が暮らしに利用されていたことがわかっています<sup>\*6</sup>。
- 玉川上水、名勝「小金井(サクラ)」の歴史的風致、暮らしの歴史が形成した農地や屋敷林、社寺、国分寺崖線沿いの道や坂などの景観資源の保全を図っています。

### 【課題】

- 市全体の緑被率が減少しており、農地の保全や緑地の創出のあり方について考慮した施策が必要です。
- 「水とみどりのネットワーク化」のあり方を考えて、施策を進めていくことが課題となっています。
- 緑地の確保と緑豊かな都市景観の形成に取り組むことが必要です。
- 設置率が高い雨水浸透ますの設置をはじめとした雨水浸透施設の整備推進を通じて、健全な水循環の保全に向けた活動・事業を継続していくことが重要です。
- 引き続き市内の歴史的風致、景観資源の保全を図ることが必要です。

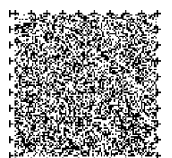
※1)東京都統計年鑑(平成24年度版)をもとに算出、

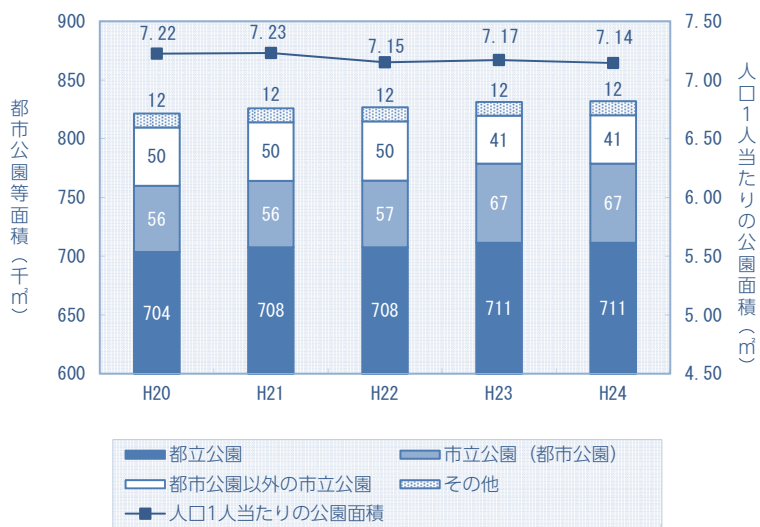
※2)小金井市緑の環境実態調査報告書(平成22年3月)、

※3)小金井市環境に関する市民アンケート調査(平成25年9月)、

※4)小金井市公共下水道プラン(平成23年3月)、※5)小金井てくてくマップ(平成24年11月)、

※6)水と緑のタイムマップ(平成25年3月)

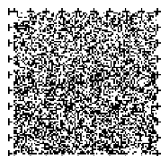


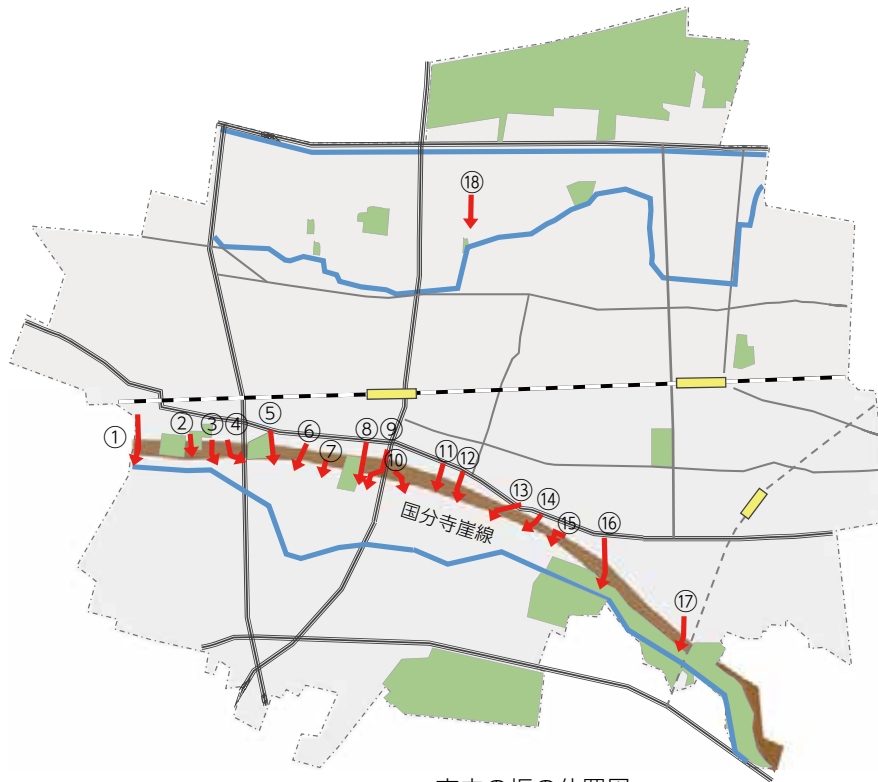


公園面積の推移  
(資料：東京都統計年鑑)



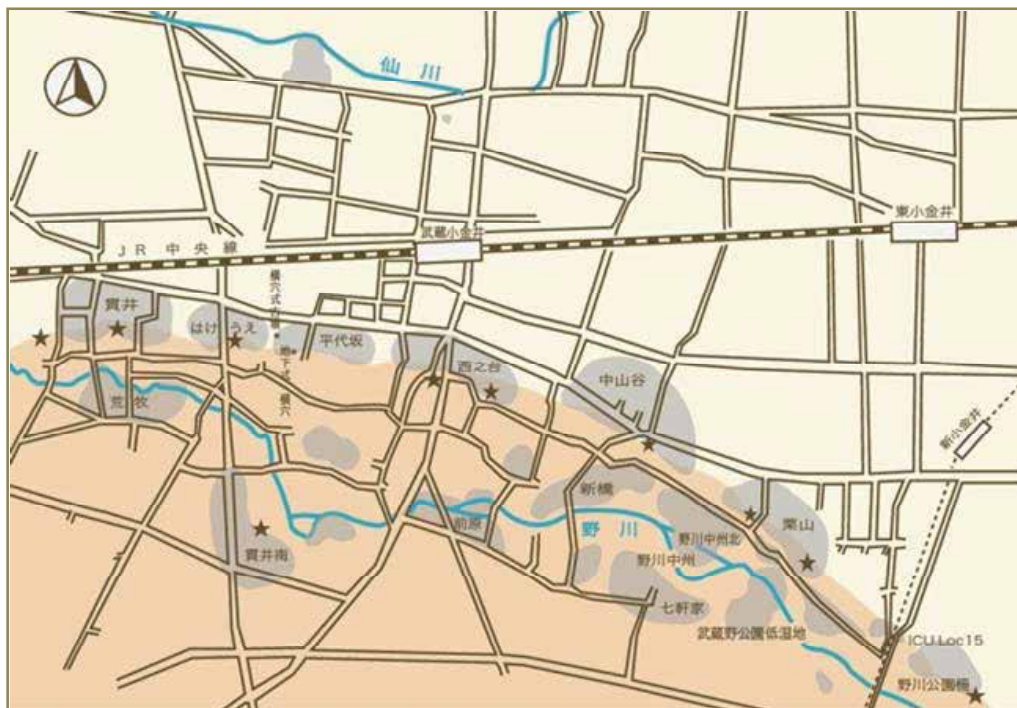
都市公園の分布  
(平成 26 年 12 月末現在)





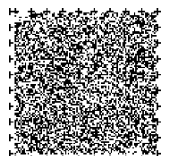
番号	坂名
①	くらぼね坂
②	三楽の坂
③	さわらび坂
④	荒牧坂
⑤	弁車の坂
⑥	平代坂
⑦	念仏坂
⑧	なそい坂
⑨	質屋坂
⑩	金蔵院の坂
⑪	車屋の坂
⑫	白伝坊の坂
⑬	おお坂
⑭	観音坂
⑮	ムジナ坂
⑯	みはらし坂
⑰	二枚橋の坂
⑱	大尽の坂

市内の坂の位置図  
 (「小金井てくてくマップ」をもとに作成)



-   
 遺跡
-   
 はげ下
-   
 はげ上
- ★印  
 湧き水の出る所

遺跡の位置図  
 (資料：水と緑のタイムマップ)





## ●生活環境

### 【現況】

- 一般環境大気測定局で大気環境（一酸化炭素、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、光化学オキシダント）の常時監視を行っており、すべての項目で環境基準を達成しています<sup>\*1</sup>。
- 道路交通騒音の監視結果（5地点）では、近年五日市街道で環境基準を超えていましたが、平成25（2013）年度は昼間、夜間ともに環境基準を超えた地点はなく、要請限度もすべての地点で下回っています。また、道路交通振動については、すべての地点で要請限度を下回っています<sup>\*1</sup>。
- 河川の水質については野川の柳橋で監視測定を行っており、すべての項目で環境基準を達成しています。また、湧水の水質についても市内3か所で監視測定を行っており、同様にすべての項目で環境基準を達成しています<sup>\*1</sup>。
- 井戸水（浅井戸）の水質については、市内14か所で年4回の監視測定を行っています<sup>\*1</sup>。
- これまでに小金井市環境市民会議では、井戸水（浅井戸）の水位を市内33か所で、また湧水の湧水量を市内3か所でそれぞれ毎月1回計測してきました。そのうち、井戸水（浅井戸）の水位は3か所で毎年0.5mを下回る時期があり、1年の間での水位変動が大きい傾向がみられます<sup>\*2</sup>。
- 市民の意識調査では、公害の防止について、3割弱の人が「地下水の定期的な監視の実施」を、「家庭における生活排水対策の推進」と「低公害車の導入や交通対策による良好な大気環境の保全」をそれぞれ2割強の人が最も力を入れるべき取組として選択しています<sup>\*3</sup>。
- 平成25（2013）年度における公害問題苦情受付件数は109件あり、前年からほぼ横ばいに推移しています。また内訳では騒音関係が約28%と最も多い割合を占めています<sup>\*1</sup>。

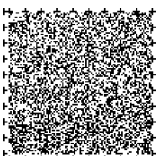
### 【課題】

- 大気環境、河川水質並びに道路交通騒音・道路交通振動は、環境基準を達成していますが、市民からの苦情もあることから何らかの対策を検討することも必要です。
- 雨水浸透ますの設置等による水循環対策は進んでいますが、井戸水（浅井戸）の水位変動が大きい傾向がみられることもあり、水質とともに今後も継続的な観測が必要です。

※ 1) 小金井市環境報告書

※ 2) 小金井市環境市民会議HP

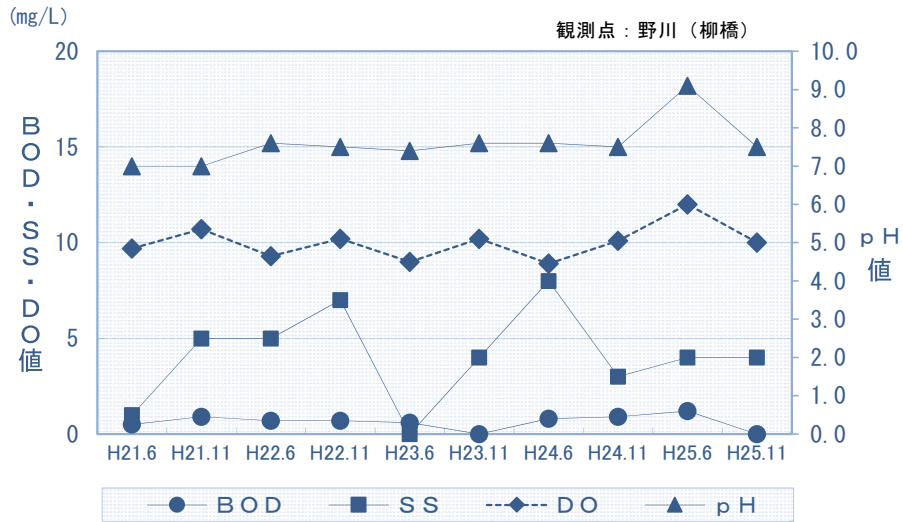
※ 3) 小金井市環境に関する市民アンケート調査（平成25年9月）



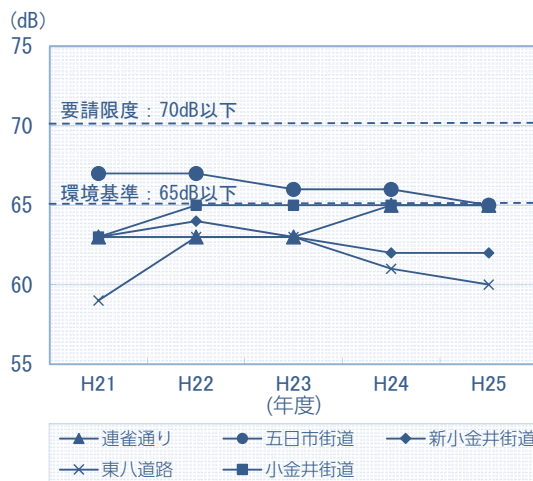


公害問題苦情受付件数の推移  
(資料：小金井市環境報告書)

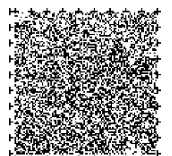
公害問題苦情の内訳 (平成 25 年度)  
(資料：小金井市環境報告書)

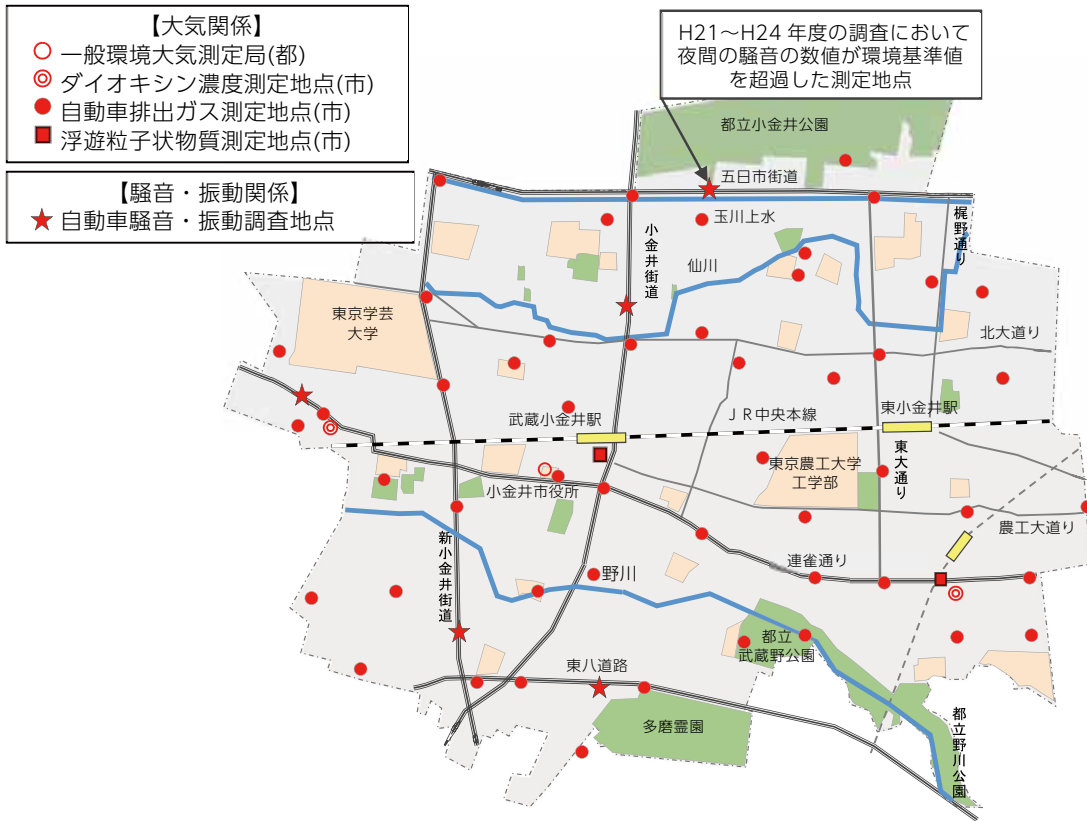


河川水質測定結果の推移  
(資料：小金井市環境報告書)



夜間の道路交通騒音の測定結果  
(資料：小金井市環境報告書)

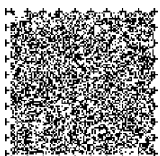




大気・騒音・振動調査の測定地点



水質調査の測定地点



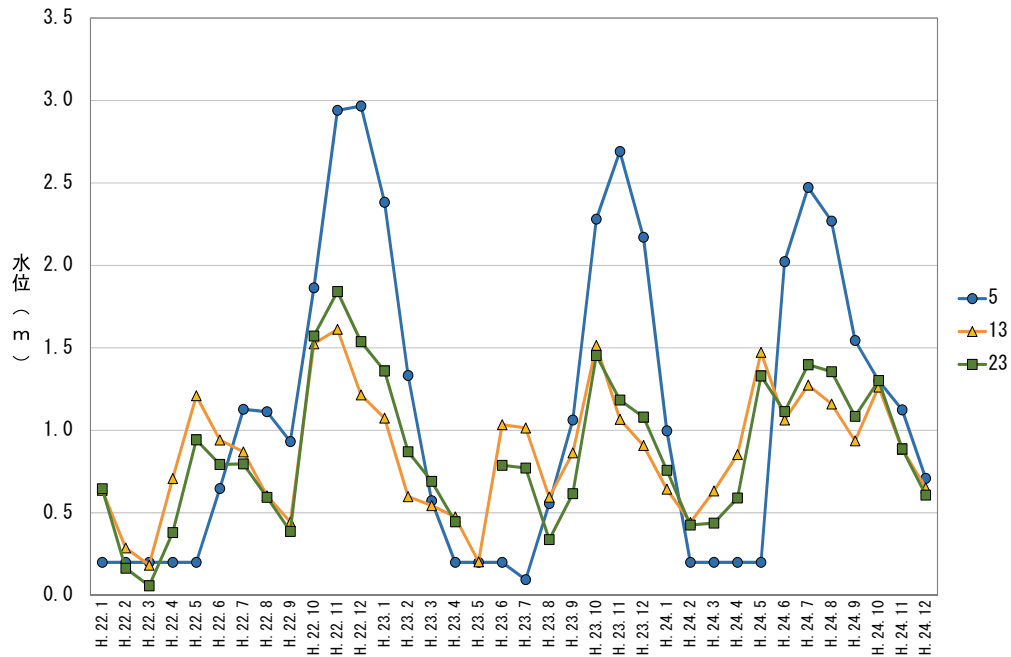


【水位・湧水量】  
 ▲ 井戸水の水位調査地点  
 ▼ 湧水量調査地点



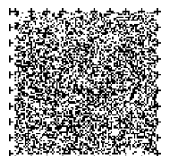
井戸水の水位・湧水量調査の測定地点

※No.3、No.9、No.14、No.21の井戸は測定終了、No.24～No.33は2012年9月より測定開始  
 (資料：小金井市環境市民会議ホームページ)



3地点における井戸水の水位 (H22.1～H24.12)

(資料：小金井市環境市民会議ホームページ)



## ●地球環境

### 【現況】

- 平成23（2011）年度における小金井市の温室効果ガス排出量は333k t -CO<sub>2</sub><sup>\*1</sup>で、小金井市地球温暖化対策地域推進計画【改訂版】の基準年として定めた平成18（2006）年度から約17.9%増加しています。内訳は二酸化炭素319.7、メタン0.4、一酸化二窒素1.4、フロン類その他ガス11.7（単位はいずれもk t -CO<sub>2</sub>）となっています。
- 市内における温室効果ガス総排出量の約96%は二酸化炭素であり、部門別では民生家庭部門の排出割合が大きく、次に割合の多い民生業務部門とあわせて全体の約79%を占めています<sup>\*1</sup>。
- 市民の意識調査では、地球温暖化防止策として「省エネや再生可能エネルギーの利用を推進する」を6割強の人が最も力を入れるべき取組として選択しており、また日常的な取組として「不必要な電源をつけない」「冷暖房温度を控えめにする」行動をいつも必ずしていると6割強の人が回答しています<sup>\*2</sup>。
- ごみの排出量は減少傾向にあり、平成24（2012）年度は25,489トンで、うち燃やすごみは12,270トンで約48.1%を占め、資源物は8,022トンで約31.5%を占めています<sup>\*3</sup>。
- 焼却処理量も減少傾向にあり、平成24（2012）年度は12,836トンを焼却処理しています<sup>\*3</sup>。
- 資源化量は増減を繰り返しつつ減少傾向にあります。
- 市民の意識調査では、資源循環に関する取組として「適正なごみ処理の推進」、「ごみの分別を徹底し、リサイクルを推進する」を最も力を入れるべき取組として選択した人がともに3割前後と高くなっています<sup>\*2</sup>。

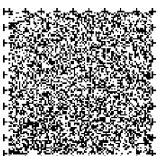
### 【課題】

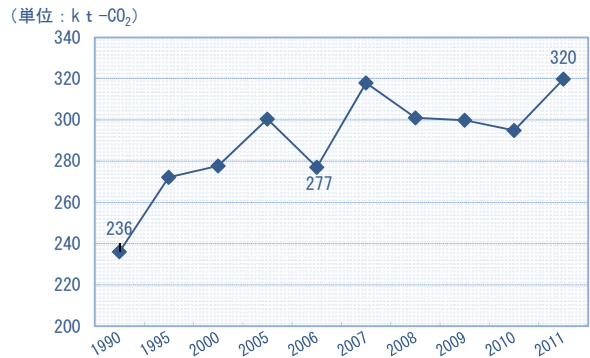
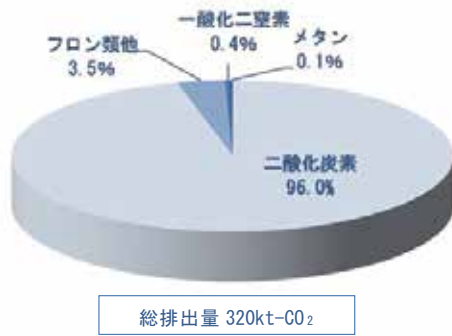
- 市民の6割強の方々は、地球温暖化対策行動を意識して行動していますが、市全体の温室効果ガス排出量は増加していることから、環境教育や情報提供等を強化し、行政、市民、事業者のさらなる意識改革を促進させ、ライフスタイルの変革等へ誘導していくことが重要です。
- 環境への負荷の少ない持続可能な循環型社会を形成するためには、ごみをもとから増やさない発生抑制を最優先とした3Rへの取組を推進し、ごみの総量を減少させることが重要です。

※1）オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」資料

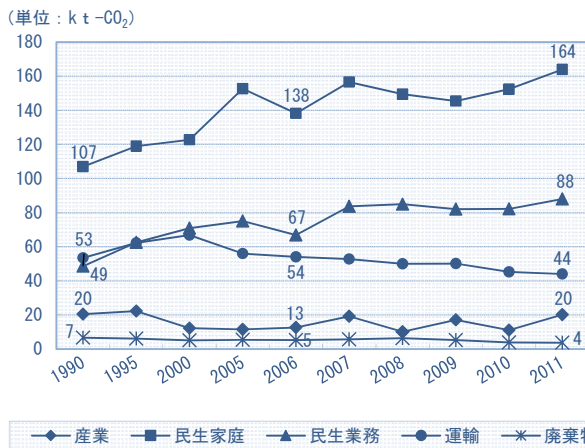
※2）小金井市環境に関する市民アンケート調査（平成25年9月）

※3）多摩地域ごみ実態調査（平成20年度～平成24年度）

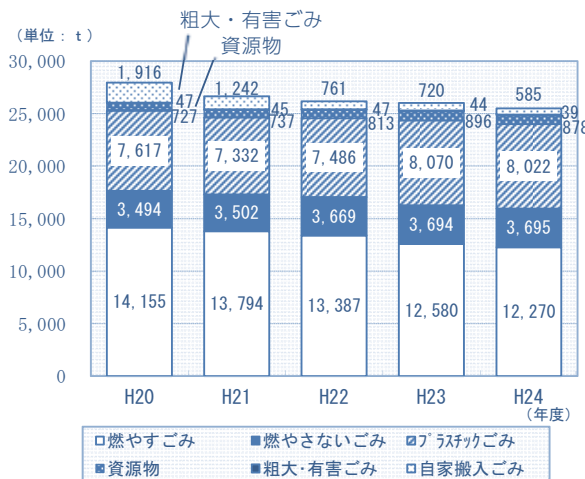




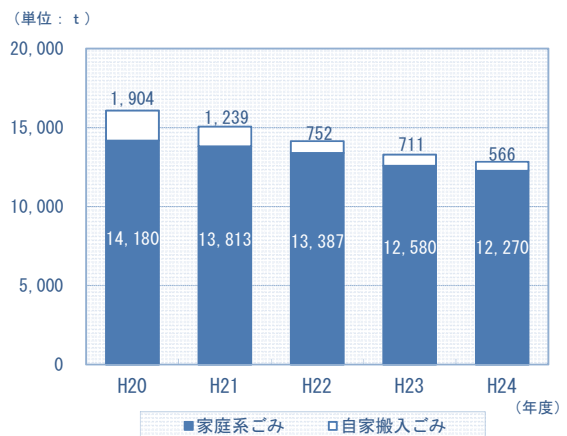
小金井市における温室効果ガスの内訳 (平成 23 (2011) 年度) (左) と二酸化炭素排出量の推移 (右)  
(資料：オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」)



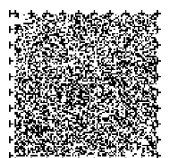
小金井市における部門別二酸化炭素排出量の推移 (左) と部門別二酸化炭素排出量内訳 (平成 23 (2011) 年度) (右)  
(資料：オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」)



ごみの排出状況  
(資料：多摩地域ごみ実態調査)



焼却処理量の推移  
(資料：多摩地域ごみ実態調査)





## 環境の現況と課題から見た改訂のポイント

小金井市の自然環境、都市環境、生活環境、地球環境については、現在の環境基本計画に盛り込まれている取組を継続することが重要です。特に重要な取組と考えられるものは、次のとおりです。

### ●自然環境

- 市内の貴重な自然環境を「まもる」取組
- 市民等が「利用する」ことができる自然環境を「つくる」取組
- 崖線と一体となった樹林地及び湧水を「水とみどりのネットワーク」として引き続き保全していく取組

### ●都市環境

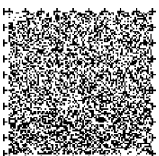
- 緑を守り育てるため、農地、都市公園、体験型市民農園などを基盤にした緑豊かな都市景観の形成、歴史的風致や景観資源の保全の視点も考慮した取組
- 自然環境とも重複する、「水とみどりのネットワーク化」のあり方を考えた取組
- 自然環境や健全な水循環の保全に効果が期待される雨水浸透施設の整備をさらに進める取組

### ●生活環境

- 大気、水質、騒音、振動等の継続的な観測、及びその他の生活環境の現状把握に向けた調査

### ●地球環境

- 地球温暖化対策行動についての環境教育や情報提供等を強化し、行政、市民、事業者のさらなる意識改革を促進させ、ライフスタイルの変革等を誘導する取組
- ごみの発生抑制を進める方策等の情報提供や広報活動の取組



## 2-2 これまでの取組の評価と課題

### (1) 基本目標別の取組の評価と課題

#### ●点検指標の推移状況

前計画では、計画の進行管理としての点検・評価を行うために「点検指標」を導入しています。この点検指標及び定量目標は、計画の「取組の方向」及び「重点的取組」に沿って定められており、実際の活用の中で、より効果的な点検・評価が行えるよう、指標そのものを必要に応じて改善していくこととしています。また、個別の指標に基づく点検に加えて、①測定できている指標数、②目標を定めている指標数についても測定し、それぞれの数の変化も評価対象とすることとしています。

しかし、点検指標数や点検指標の測定数の状況は、経年的に整理・公表されておらず、進捗管理として用いられているPDCAサイクルを再構築することが重要です。

#### ●基本目標の進捗状況と評価

前計画には次の8つの基本目標と取組の方向が掲げられています。

##### ① 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる

- ①環境学習の推進
- ②パートナーシップ・ネットワークづくり
- ③情報の積極的な活用

##### ② 緑を守り育てる

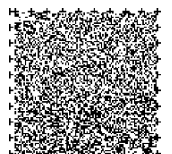
- ①緑の保全
- ②緑の創造
- ③まちづくりにおける農の活用

##### ③ 地下水・湧水・河川の水循環を回復する

- ①地下水・湧水に関する現況把握
- ②地下水・湧水の保全
- ③河川環境の保全
- ④地下水・湧水生態系の保全
- ⑤水の循環的利用
- ⑥市民等の啓発と連携

##### ④ 自然環境を一体的に保全する

- ①自然環境の保全
- ②生物の多様性の保全
- ③人と自然とのふれあいの確保



**5 公害を未然に防止する**

- ①公害対策
- ②有害化学物質対策
- ③ヒートアイランド対策

**6 小金井らしい景観をつくる**

- ①小金井らしい景観の確保
- ②歴史的文化的遺産の保全
- ③環境と共生する都市づくり

**7 ごみを出さない暮らしとまちをつくる**

- ①ごみを出さない
- ②資源循環の推進
- ③適正な処理
- ④有機系廃棄物の循環利用

**8 地域から地球環境を保全する**

- ①地球温暖化の防止
- ②オゾン層の保護
- ③その他の地球環境保全

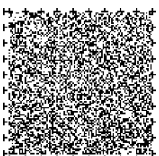
基本目標の進捗状況は、「環境報告書」で報告されていますが、基本目標ごとの取組は継続的なものが多く、それぞれの取組について成果は上がっていても、基本目標の総合的な進捗状況は見えにくくなっています。このため、内部評価に加えて市民意見などの外部の視点を取り入れた進捗状況の「見える化」の仕組みづくりを検討することが重要です。

## ●意識調査の結果分析からの評価と課題

環境基本計画や小金井市の環境について、市民、事業者、市民団体、庁内関連部局等へのアンケート調査やヒアリング調査を実施しました。

アンケート調査やヒアリング調査で寄せられた主要なポイントは、次のとおりです。

- 「環境基本計画」の認知度が極めて低く、環境基本計画の周知のための情報発信方法等の方策についての検討が必要
- 基本目標ごとの取組は、引き続き継続することが重要
- 「循環型社会（ごみ）」や「自然との共生（緑・水）」、「地球温暖化問題」等の「現在ある環境問題」について引き続き対応し、「PM2.5問題」等の新たな環境問題についても取組の方向を盛り込むことが必要
- 環境基本計画を推進するために、ネットワーク（横の連携）、情報の発信と共有化、活動の場の確保、人材の育成と確保が重要



## (2) 重点的取組の評価と課題

前計画では、「緑・水・生きもの・人・・・わたしたちが心豊かにくらすまち小金井」の環境像（将来像）のもと、次の6つの重点的取組を定めています。

### 6つの重点的取組

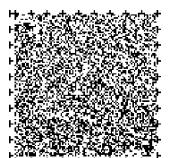
- 1) 環境学習を全市に広げる
- 2) 推進のネットワークをつくる
- 3) 緑の保全とネットワークづくり
- 4) 農をまちづくりに～市民と農家の交流を支援する
- 5) 水のめぐりを回復する
- 6) ごみを減量する

重点的取組は、市・市民団体（環境市民会議等）・市民・事業者（農業者等）・教育機関などの各主体が役割を担うこととなっています。重点的取組の評価と課題については、取組の実施にあたり中心的な役割を果たしてきた環境市民会議などによると次のとおりです。

※小金井市環境市民会議からの報告書（平成26年5月20日）より評価・課題を抜粋して作成

### 1) 環境学習を全市に広げる

評価（取組内容）	課題	関連する施策分野（基本目標）
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「環境楽習館」開設により市内市民団体と連携した活動、環境教育発祥の地である東京学芸大学との連携も進みました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材、教材など環境教育を継続的に行える仕組みづくりが課題です</li> <li>● ニーズにあった学習プログラム内容の制作のために専門家・学校・教育委員会のマッチングが課題です</li> <li>● 「環境楽習館」の有効的な運用、大学との協働や周辺自治体との連携が課題です</li> </ul>	<p>1 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビオトープや学校農園などを活動の場として、ほとんどの小学校で市民との協働による環境学習の取組が実行されました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業の継続性、創生・維持管理等についての情報の共有化やデータベース化等に課題があります</li> <li>● 教育委員会、学校、市民、市民団体の役割分担や協働の仕組みづくりに課題があります</li> </ul>	<p>4 自然環境を一体的に保全する</p>





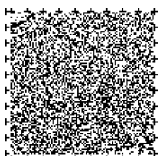
## 2) 推進のネットワークをつくる

評価 (取組内容)	課題	関連する施策分野 (基本目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎年、環境フォーラム・環境講座・環境施設見学会・環境サロンが開催され、市内及び近隣市の環境団体との交流ができました</li> <li>● 「田んぼの時間」などの環境学習活動を通じて、市内各大学との協働も継続的に進められました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動主体が集まる拠点や情報拠点の確保が課題です</li> <li>● 多種多様な市民活動に関する情報・成果等が主体ごとに分散しており、集約化や活用等が課題です</li> <li>● コーディネーター、ファシリテーターなどの技術の取得への取組が課題です</li> </ul>	<p>① 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる</p>

## 3) 緑の保全とネットワークづくり

評価 (取組内容)	課題	関連する施策分野 (基本目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「田んぼの時間」の継続的な活動により子どもの参加する環境学習が進んでいます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コーディネート機能の強化が課題です</li> </ul>	<p>① 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑の実態について、緑調査や公園調査が実施され情報の収集とデータ化、並びに市民参加による緑の管理保全活動が積極的・持続的に行われています</li> <li>● 樹木や生け垣の保存指定を行い緑の保全を図っています</li> <li>● 梶野公園、野川や玉川上水沿いの緑などの管理保全に市民が積極的、持続的に参加しています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民有地の緑については、緑の量に加えて、生活に必要な緑の質を確保する方策を検討することも必要です</li> <li>● 個々の活動をコーディネートする機能の強化が課題です</li> </ul>	<p>② 緑を守り育てる</p>

(続く)

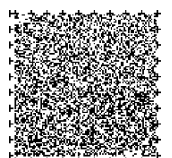


(続き)

評価 (取組内容)	課題	関連する施策分野 (基本目標)
● 連雀通りの街路樹選定と、コミュニティ創出に向けた整備計画を提案しました	● 南北軸や緑の回廊による緑と生物の持続的な共生について、「暮らしの中で緑を増やす」方策を検討することも必要です	4 自然環境を一体的に保全する
● 市内全域の緑地調査、公園調査を実施し、データのデジタル化を行いました	● 作成した情報の共有化やデータベース化等に課題があります	6 小金井らしい景観をつくる

## 4) 農をまちづくりに～市民と農家の交流を支援する

評価 (取組内容)	課題	関連する施策分野 (基本目標)
● 環境講座、シンポジウム等の講師の依頼、環境フォーラムでの野菜販売などを通じて交流を深めました	● 農家とのコミュニケーションの充実を図るための人脈づくりを計画的に進めていく必要があります	1 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる
● 環境講座でシードバンクとの協働を試みました	● 農家と市民をつなぐことが課題です	2 緑を守り育てる
● 体験型市民農園の取組が行われています	● JAとの協働のあり方について検討が必要です	4 自然環境を一体的に保全する

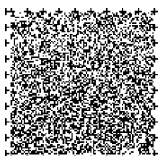


## 5) 水のめぐりを回復する

評価 (取組内容)	課題	関連する施策分野 (基本目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境市民会議、小学校、野川流域連絡会、法政大学など多くの団体や個人が活発に調査活動を行っていますが、横のつながりは希薄です</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査は行われていますが、実施主体間の連携や情報・結果の共有化を図ることが必要です</li> </ul>	<b>① 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地下水、湧水調査や野川の水質、流量調査を行っています</li> <li>● 雨水浸透ます、雨水貯留タンクの設置が行われています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 用水路復活の取組が周辺他市と比較して進んでいません</li> <li>● 雨水浸透ます、雨水貯留タンクの設置をさらに進める必要があります</li> </ul>	<b>③ 地下水・湧水・河川の水循環を回復する</b>

## 6) ごみを減量する

評価 (取組内容)	課題	関連する施策分野 (基本目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル推進協力店の取組が行われています</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル推進協力店の取組を推進させる方が必要です</li> </ul>	<b>① 意識・情報・学習・行動のネットワークをつくる</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル、リユース食器の取組や生ごみのコンポストによる堆肥化などに市民が前向きに取り組んでいます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル、リユースの活動を促進させるとともに、行政と協働して発生抑制の取組を推進する必要があります</li> </ul>	<b>⑦ ごみを出さない暮らしとまちをつくる</b>



## 2-3 環境保全に向けた課題

ここでは、前項の「基本目標別の取組」、「重点的取組」などの評価と課題から、環境保全に向けた共通の課題や重要なポイントを整理しています。

### 基本目標と重点的取組

- 基本目標は継続することが重要です。
- 重点的取組は複数の基本目標と関連させることによって、効果的に基本目標を達成できるような視点で立案することが重要です。

### 環境基本計画の認知度向上に向けた情報発信と環境教育の充実

- 環境基本計画の認知度は、低い状況にあります。
- 環境基本計画を周知し、その内容について理解を得ることが重要です。
- 市民・事業者・各種団体は、環境基本計画についての様々な情報を期待しています。
- 情報提供に関しては、情報受信対象者を意識した発信媒体の選択、適切な発信場所、発信頻度、内容などと、発信した情報の認知度の確認方法、確認する場所などの検討が必要です。
- 環境教育は、環境基本計画の内容を理解して貰う有効な手段です。環境教育のプログラムの充実やコーディネーター、ファシリテーター等の人材育成が大きな課題となってきました。

### 環境基本計画の成果や改善策などの情報の行政と市民・事業者等による共有

- 環境審議会から指摘を受けているP D C Aサイクル（事業の評価方法、改善方策、公表の仕方、見直しの期間・時期など）について、実効的なシステムの再構築に向けた方向性を検討していくことが重要です。
- 事業の実施結果に対する定量的・定性的な評価や改善策など、環境基本計画の成果に関する情報については、市民・事業者等との共有のあり方を検討していくことが必要です。

### 計画の目標達成に向けた各種主体間のネットワーク（連携）と協働強化

- 目標達成のための各種主体間のネットワークと協働のさらなる推進方策が必要です。
- 小金井市に現存する自然、文化、施設、各種団体、組織等の利点を生かし、結びつけることによる新たな魅力・良さを引き出す取組が重要です。

